

試験日 : 2025 年 9 月 13 日 (土)

入試種別 : 大学院入学試験(4 月入学)修士課程 秋期試験 一般入試

学部・研究科 : 文学研究科 日本語日本文学専攻

科目名 : 専門科目

解答又は解答例

一

【A】

問一 太政大臣

問二 (例) 一周忌にあたる月になって、法事のことなどをご準備なさる

問三 (例) 北の方が亡くなった去年の月と同じ月がめぐってきて、雲に隠れていた月も顔を出したけれども、月の光によってもあの人の面影は見えないことだなあ。

問四 ラ行下二段動詞「隠る」の連用形＋尊敬の補助動詞「たまふ」の連用形＋完了の助動詞「ぬ」の連用形＋過去の助動詞「けり」の終止形

問五 (例) 宇多上皇が、喪の明けた藤原忠平のために醍醐天皇に手紙を書き、禁色の勅許を得た。

問六 (例) 亡き北の方の父である宇多上皇の心遣いのおかげで、喪が明けて喪服を脱いだあとも彼女の形見となる禁色を着て、これからも彼女を偲ぶことができるから。

問七 (例) 帝のお出ましがあれば、とても興味の深い所であるよ。必ず帝に奏上してお出ましさせ申しあげよう。

問八 をくら山みねのもみち葉心あらは

いまひとたひのみゆきまたなん

問九 (例) 小倉山の峰の紅葉よ、おまえに心があるのならば、もう一度帝がお出ましになるまで散らずにそのまま待つてほしい。

問一〇 (例) 時期の前後はあれ、兄弟の忠平・仲平がともに大臣になったこと。

問一一 (例) 作者未詳の平安中期の歌物語で、百七十余段からなる。天暦年間頃に大部分は成立したと考えられる。「歌語り」の集成として、前半では醍醐・朱雀・村上朝期を中心とした貴族社会における和歌の諸相と歌

人の逸話を語るとともに、後半には古伝承に取材する話を載せ、説話文学への契機を持つとも言われる。

【B】

- 問一 『小説神髓』
- 問二 (例)『武蔵野』 渋谷村に住む主人公が、東京近郊の武蔵野の地をあてもなく散策し、そこで感じた自然の美しさや自身の内面を綴っていく随筆。明確な起承転結はなく、自然主義文学の先駆けとなった作品。
- 問三 (例) 高村光太郎は一八八三年に東京に生まれた詩人・彫刻家である。詩人としては、詩集『道程』(一九一四)や『智恵子抄』(一九四一)で広く知られた。欧米に留学し、オーギュスト・ロダンに彫刻家として大きな影響を受けた。
- 問四 (例)『細雪』、『陰翳礼讃』 永井荷風、佐藤春夫
- 問五 (例) 吉行淳之介 「第三の新人」とは、昭和二〇年代後半、戦後派に続いて文壇に登場した作家の総称である。山本健吉の評論「第三の新人」(『文学界』一九五三)に由来する。戦争中に青春を過ごし、私小説的伝統への復帰の流れに棹さしたこと、朝鮮動乱の特需による景気回復に比喩的に照応したことなどが特徴である。
- 問六 (例) 開高健は、一九三〇年に大阪に生まれた作家である。『パニック』(一九五七)が文芸時評で平野謙の激賞を受け、同年末、『文学界』掲載の『裸の王様』で芥川賞を獲得した。戦後派文学の流れをくむ新世代の代表的存在で、敗戦のもたらした飢餓体験を原風景として描いた。
- 問七 (例) 太宰治、坂口安吾 「無頼派」とは、第二次世界大戦後の一時期、旺盛な活躍ぶりをみせ注目を浴びた一群の作家たちに与えられた名称である。墮落、破滅や従来のリアリズムの否定など、反俗、反秩序を主題とする傾向にあった。
- 問八 (例)『六白金星』 一九四六年に発表された短編小説。頭がよくずる賢い兄と対照的な、鈍才で要領が悪い弟・檜雄の成長を描いた物語。妾の子として蔑まれながらも、自分が「六白金星」の星の下に生まれ、一度思い込んだらやり抜く男だと意地を張り、不器用ながらも必死に生きる姿が綴られている。

【C】

- 問一 文昌堂

- 問二 絵双紙屋
- 問三 しょうぎょう
- 問四 節用集
- 問五 書肆が刊行した版本。
- 問六 江戸時代に、主に京・大坂・江戸で結成された出版および書籍販売を行う業者の組合のこと。
- 問七 「重版」とは、他の書肆が刊行している本の海賊版に相当する本を刊行すること。または、そのような本のこと。「類版」は、他の書肆が刊行している本の内容や構成と酷似した本を刊行すること。または、そのような本のこと。
- 問八 (例) いわゆる「重版」は、当時における違法出版行為で、本屋仲間はその調停に携わっていた。よって、「重版」を容認した場合、自らその規則に違反したことになってしまうから。

【D】

- 問一 ① [z] ② [k] ③ [d] ④ [p]
- 問二 当該問題は、受験生の今後の研究に必要な基礎的な知識を問うものである。設問の性格上、解答例の提示はなじまないことから、以下に採点のポイントを示す。
- ・入学後の円滑な研究遂行が可能となるような、日本語学の基盤的な知識を身につけていることが理解できる記述内容であること。
 - ・適切な具体例を複数提示し、それに基づいて各用語の説明ができていること。
 - ・アカデミック・ライティングの基本に則り、正しい表記および文章表現で書かれていること。
- 問三 当該問題は、受験生の今後の研究に必要な基礎的な知識を問うものである。設問の性格上、解答例の提示はなじまないことから、以下に採点のポイントを示す。
- ・入学後の円滑な研究遂行が可能となるような、日本語学の基盤的な知識を身につけていることが理解できる記述内容であること。
 - ・適切な具体例、時代背景などを示しつつ、分かりやすく説明していること。
 - ・アカデミック・ライティングの基本に則り、正しい表記および文章表現で書かれていること。

当該問題は、本専攻の「入学者受け入れの方針」を踏まえ、専攻分野に関する基礎的な研究能力の一環としての、自身の研究分野を含む日本語日本文学についての基本的事項の広範な知識、および言語表現能力の有無を測定するものである。設問の性格上、解答例の提示はなじまないことから、以下に採点のポイントを示す。

- ・ 入学後の円滑な研究遂行が可能となるような、日本語日本文学に関する基盤的な知識を身につけていることが理解できる記述内容であること。
- ・ 具体例なども適切に示しつつ、分かりやすく、かつ正確な文章で説明していること。
- ・ アカデミック・ライティングの基本に則り、正しい表記および文章表現で書かれていること。